

実践② — 災害発生数日を経過した場合の条件付与や課題設定 —

【設定①】

避難所に地域住民が集まりだし、騒然としています。避難者数の把握・推計と、まずは何から始めたらよいか、考えてみましょう。

これは避難所の運営について考えることができます。

地域にある指定避難所における避難者数を推計し、収容可能人数と比較を行います。混雑する避難所の様子をイメージし、誰がどのように運営するか、物資は何がどれくらい必要か、どこから調達するのか。備蓄の在庫量を確認しておくことも必要です。また、役割分担・災害時要援護者・ペット対策等の部分も忘れないようにしましょう。

災害時には自分達の地域以外の人でも避難してくる場合もあります。近くに娯楽施設や人が集まる場所がある場合、避難者数が膨らむことも考えておきましょう。

【設定②】

駅・運動施設・観光施設等の周辺に、県外からの来訪者が集まり、騒然としています。地域住民として何をしたらよいか、考えてみましょう。

これは、滞留旅客等の避難について考えることができます。

地域住民以外で、観光客や帰宅困難者がどれくらいの人数になり、どこへ避難し、誰が対応するのか考えます。平日なら駅に帰宅困難者が多くなりますし、休日なら観光客が多くなります。地域住民以外の方に誰が指示できるのか、地域との連携についても検討しておきましょう。

【設定③】

山間部の道路が土砂崩れで不通となってしまいました。孤立した地域の対策はどうしたらよいか、考えてみましょう。

これは、山間部の地域が孤立したときについて考えることができます。

地域が孤立してしまった場合、道路の復旧に要する時間(日数)を推計し、復旧までの対策を考えます。道路復旧までは支援を期待できない以上、自給自足を要します。復旧までの日数と自給自足が出来る限界を比較しましょう。また、その他の手段として迂回路やヘリポートの利用も確認しておきましょう。

通信手段についても重要課題です。孤立した地域との通信手段がない場

合のことも想定しなければなりません。

道路の復旧については、地域で行うには限度がありますので、連絡体制として行政と検討しておくといでしょう。